

—国内動向—

1 東京都・大阪市中央卸売市場の需給動向（令和8年8月）

【ポイント】

- 気温は、西日本でかなり高かった。降水量は、北日本日本海側でかなり少なかった一方、沖縄・奄美でかなり多かった。日照時間は、北日本日本海側でかなり多かった。
- 東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は10万989トン、前年同月比100.5%、価格は1キログラム当たり308円、同98.2%となった。
- 大阪市中央卸売市場における野菜の入荷量は3万4531トン、前年同月比103.4%、価格は1キログラム当たり284円、同97.9%となった。
- 9～10月は平年より気温が高い日が続き、生育は前進し、価格は低迷して推移すると見込まれる。一方、長雨などの天候不順による品質の低下や供給不足などのおそれも想定される。

（1）気象概況

北・西日本では、低気圧や前線の影響を受けた日もあったが、高気圧に覆われやすかったため晴れた日が多く、月間日照時間は、北日本日本海側ではかなり多く、北・西日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。月降水量は、低気圧や前線の影響を受けにくく、湿った空気が流れ込みにくかった北日本日本海側ではかなり少なく、北・西日本太平洋側と西日本日本海側では少なかった。一方、東日本日本海側と東日本太平洋側の降水量は平年並だったが、13日から14日にかけて「令和8年8月千葉豪雨」が発生したほか、27日には秋雨前線や湿った空気の影響を受けた富山県と石川県で、29日から30日には福井県で、それぞれ記録的な大雨となった。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風第13号、第18号、第20号や湿った空気の影響を受けたため月降水量はかなり多く、月間日照時間は少なかった。

日本付近では、中旬まで偏西風が平年より北を流れやすかったほか、北・西日本を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため、月平均気温は上旬と下旬に酷暑日を

観測した所があった西日本でかなり高く、北日本で高かった。

○平均気温は、西日本ではかなり高かった。北日本では高かった。東日本、沖縄・奄美では平年並だった。

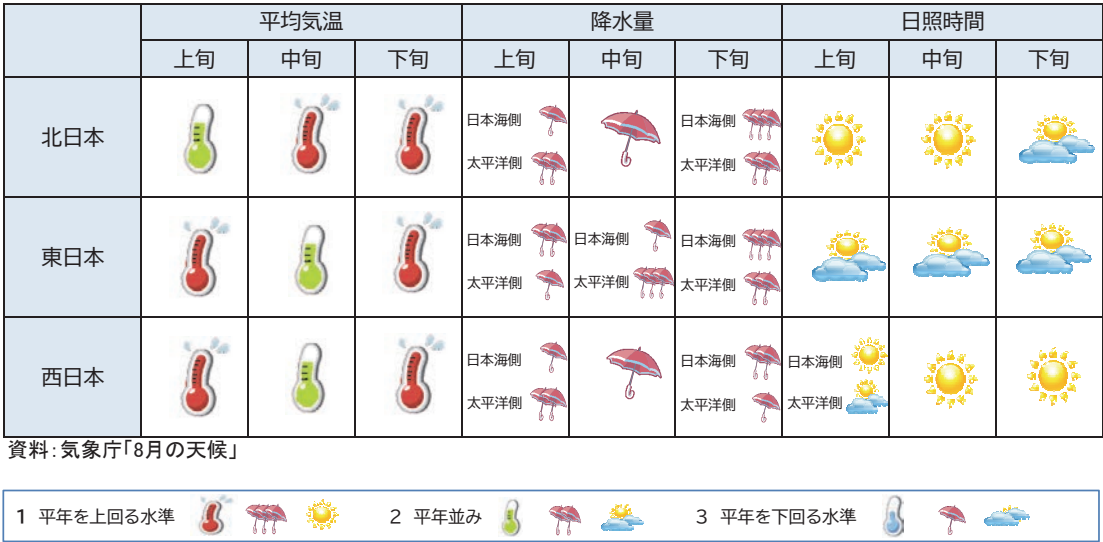
○降水量は、沖縄・奄美ではかなり多かった。北日本日本海側ではかなり少なかった。北日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側では少なかった。東日本日本海側、東日本太平洋側では平年並だった。

○日照時間は、北日本日本海側ではかなり多かった。北日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側では多かった。沖縄・奄美では少なかった。東日本日本海側、東日本太平洋側では平年並だった。

旬別の平均気温、降水量、日照時間は図1の通り。

（出典：気象庁HP「2026年8月の天候」）

図 1 気象概況



(2) 東京都中央卸売市場

東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は10万989トン、前年同月比100.5%、価

格は1キログラム当たり308円、同98.2%となった(表1)。

表 1 東京都中央卸売市場の動向 (8月速報)

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg) の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	100,989	100.5	91.2	308	98.2	110.7	330	324	279
だいこん	5,732	92.0	87.3	146	120.1	124.9	165	181	110
にんじん	5,509	103.7	96.0	107	66.3	75.9	95	102	121
はくさい	4,823	108.7	81.7	109	107.6	133.1	120	140	84
キャベツ類	13,585	88.6	83.9	119	144.6	150.9	125	137	99
ほうれんそう	608	111.6	99.2	884	93.8	100.8	978	962	769
ねぎ	3,229	107.9	95.3	326	76.8	88.3	306	371	314
ブロッコリー	1,841	94.7	102.0	560	116.6	113.1	502	525	661
レタス類	8,713	108.7	93.8	153	67.1	87.9	176	146	142
きゅうり	6,722	97.7	88.0	425	110.4	126.4	534	448	327
なす	3,411	100.0	95.2	368	100.7	109.2	390	364	351
トマト	6,199	98.4	82.0	464	92.1	118.7	470	451	473
ピーマン	2,306	108.5	101.0	447	85.4	101.0	476	504	394
ばれいしょ	5,204	116.2	106.0	176	91.4	99.2	210	184	148
さといも	201	83.1	72.2	486	99.1	117.1	508	516	460
たまねぎ	8,868	108.0	95.5	120	95.9	97.7	144	119	104

資料：東京青果物情報センター「青果物流通月報・旬報」
注1：平年比は過去5カ年（令和3～7年）平均との比較。
注2：豊洲、大田、豊島、淀橋、葛西、北足立、板橋、世田谷、多摩ニュータウンの9市場のデータである。

根菜類は、にんじんの価格が、中旬以降、徐々に上昇したものの、高値で推移した前年を3割以上下回り、平年を2割以上下回った(図2)。

葉茎菜類は、キャベツの価格が、下旬に落ち着いたものの、安値で推移した前年を4割以上上回り、平年を5割強上回った(図3)。

果菜類は、ピーマンの価格が、下旬に落ち

着き、高値で推移した前年をかなり大きく下回り、平年をわずかに上回った(図4)。

土物類は、ばれいしょが、潤沢な入荷から下旬に向け価格を下げ、やや高値で推移した前年をかなりの程度下回り、平年をわずかに下回った(図5)。

なお、品目別の詳細については表2の通り。

図2 にんじんの入荷量と卸売価格の推移

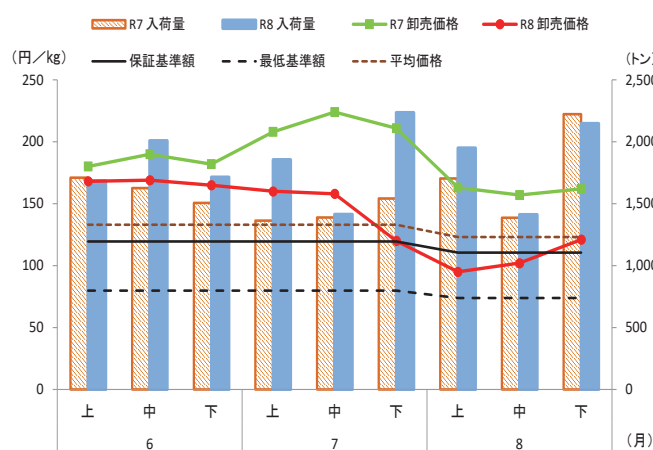


図3 キャベツの入荷量と卸売価格の推移

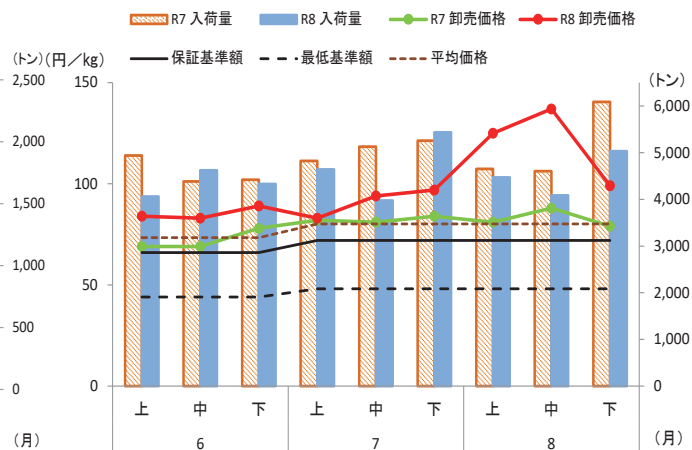


図4 ピーマンの入荷量と卸売価格の推移

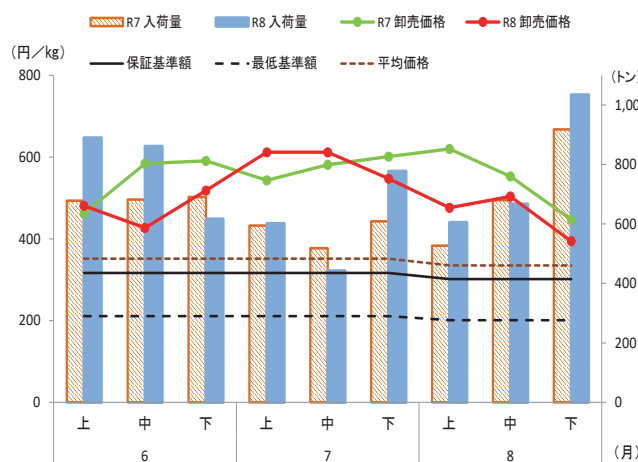
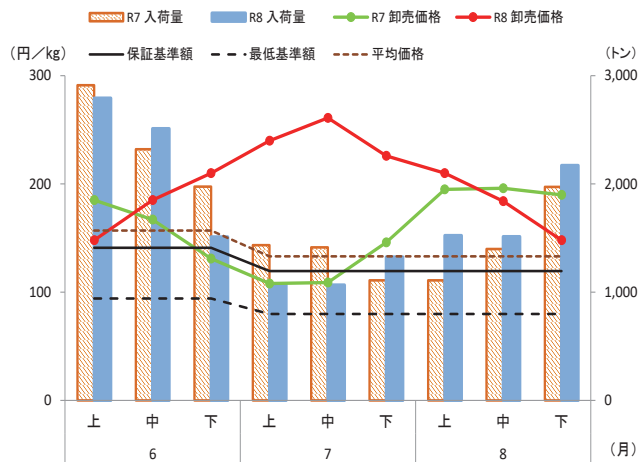


図5 ばれいしょの入荷量と卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター「青果物流通旬報」

注1：卸売価格とは、東京都中央卸売市場の平均卸売価格で、指定野菜価格安定対策事業（以下「事業」という）における平均価格、保証基準額および最低基準額とは、関東ブロックにおける価格である。

注2：平均価格とは、事業における過去6カ年の卸売市場を平均した価格を基に物価指数などを加味した価格である。

注3：事業における価格差補給交付金は、平均販売価額（出荷された野菜の旬別およびブロック別の平均価額）を下回った場合に交付されるため、上記の各表で卸売価格が保証基準額を下回ったからといって、交付されるとは限らない。

表2 品目別入荷量・価格の動向（東京都中央卸売市場）

類別	品目	8月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	北海道産を中心に青森産の入荷があった。北海道産の作付面積は前年並みで、気温にも恵まれ順調で、やや前進傾向である。青森産の作付面積は前年を上回り、6月以降の夜温の低下により肥大が停滞しており、5～7日程度生育が遅延している。総入荷量は少なかった前年をかなりの程度下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、下旬以降落ち着いたものの、前年、平年ともに2割以上上回った。
	にんじん 	北海道産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調で前進傾向だが、干ばつの影響でやや小玉傾向であった。輸入の中国産は、前年を4割以上下回っている。総入荷量は少なかった前年をやや上回り、平年をやや下回った。 価格は、中旬以降、徐々に上昇したものの、高値で推移した前年を3割以上下回り、平年を2割以上下回った。
葉茎菜類	はくさい 	長野産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、一部圃場 ^{ほじょう} で高温・干ばつによる小玉傾向が見られるが、生育はおおむね順調である。出荷量は、少なかった前年をかなりの程度上回り、平年を大幅に下回った。 価格は、下旬に大幅に下げたものの、高値で推移した前年をかなりの程度上回り、平年を3割以上上回った。
	キャベツ類 	群馬産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、曇雨天の影響により生育が遅延しており、やや小玉傾向であった。また、病虫害の発生が散見される。総入荷量は、少なかった前年をかなり大きく下回り、平年を大幅に下回った。 価格は、下旬に落ち着いたものの、安値で推移した前年を4割以上上回り、平年を5割強上回った。
	ほうれんそう 	群馬産、栃木産高冷地ハウス中心の入荷であった。群馬産の作付面積は前年並みで、生育は順調でやや前進し、出荷量は下旬に増加した。一部アブラムシが散見されている。栃木産の作付面積は前年並みで、曇雨天の影響により、やや軟弱徒長気味である。一部病虫害が散見されている。総入荷量は、少なかった前年をかなり大きく上回り、平年をわずかに下回った。 価格は、下旬に落ち着きを見せ、高値で推移した前年をかなりの程度下回り、平年をわずかに上回った。
	ねぎ 	茨城産を中心に秋田産、青森産、北海道産の入荷があった。茨城産の作付面積は前年並みで、夏ねぎは終盤である。生育は順調で、肥大も良好であったが、等級は下の比率が上昇した。秋田産の作付面積は前年並みで、日照時間に恵まれ生育はおおむね順調だが、病害の発生が平年より多い。青森産の作付面積は、前年をやや上回り、7月の降雨で病害が散見されるも、生育はおおむね順調であった。北海道産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調であった。輸入の中国産は、前年を3割以上下回った。総入荷量は、少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をやや下回った。 価格は、需要期から外れていたことや、関東の残量が多いところに、東北・北海道の増量ペースが速かったこともあり、高値で推移した前年を2割以上下回り、平年をかなり大きく下回った。
	ブロッコリー 	北海道産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、天候に恵まれ生育は順調で、前進傾向は解消されつつある。総入荷量は前年をやや下回り、平年をわずかに上回った。 価格は、前年を大幅に上回り、平年をかなり大きく上回った。
	レタス類 	長野産を中心に群馬産の入荷があった。長野産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調だが、やや小玉傾向であった。高温・干ばつの影響でチップバーン、日焼けなどの症状が散見される。 群馬産の作付面積は前年並みで、乾燥で停滞していた生育は回復し順調である。総入荷量は、少なめに推移した前年をかなりの程度上回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、中旬以降落ち着いたき、高値で推移した前年を3割以上下回り、平年をかなり大きく下回った。

果菜類	きゅうり	福島産を中心に岩手産、秋田産など東北産地中心の入荷であった。福島産の作付面積は前年並みで、半促成作は終了した。雨よけ、露地作は、7月以降の日照不足の影響で生育が停滞している。形状不良果の発生が多いほか、樹勢が低下している。多湿下での生育から、病害が多く、虫害も散見されている。岩手産の作付面積は前年並みで、低温および日照不足の影響による生育遅延からは回復傾向であるが、病虫害が散見される。秋田産の作付面積は前年並みで、低温、日照不足の影響により、根の活着が悪く、樹勢はやや弱い。また、病虫害も散見されている。総入荷量は、少なかった前年をわずかに下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、大幅な高値であった上旬から旬を追うごとに落ちていたものの、高値で推移した前年をかなりの程度上回り、平年を2割以上上回った。
	なす	群馬産を中心に栃木産など関東露地作中心の入荷であった。群馬産の作付面積は前年並みで、梅雨が明けてから樹勢は回復傾向だが、その後の高温での落花、ボケ果が見られる。また、病虫害も散見される。栃木産の作付面積は前年並みで、曇雨天や夜温の低下の影響により生育が停滞している。梅雨明け後は回復傾向であったが、花落ちが散見され、病虫害が散見される。総入荷量は、やや少なかった前年並みとなり、平年をやや下回った。 価格は、旬を追うごとに緩やかに落ち着き、やや高値で推移した前年をわずかに上回り、平年をかなりの程度上回った。
	トマト	北海道産を中心に福島産、群馬産などの入荷があった。北海道産の作付面積は前年並みで、やや進んでいた生育は7月の曇天の影響で前年並みに戻っている。一部病虫害が散見される。福島産の作付面積は、前年をやや上回っている。生育期の気温が低かった影響により着色が遅れており、5～7日ほど生育が遅延している。樹勢の低下も相まって落花が散見され、病害の発生が前年より早い。群馬産の作付面積は前年をやや上回っている。高温により、一部、樹勢が低下し花落ちが見られる。また、虫害も散見される。総入荷量は、少なかった前年をわずかに下回り、平年を大幅に下回った。 価格は、高値で推移した前年をかなりの程度下回り、平年を大幅に上回った。
	ピーマン	岩手産を中心に茨城産などの入荷があった。岩手産の作付面積は前年並みで、一部圃場で病虫害が見られるが、大きな影響はなく生育はおおむね順調である。茨城産の作付面積は前年並みで、曇天続きにより生育が遅延して、作の終盤で漸減している。福島産の露地作は、生育が遅延傾向である。総入荷量は、少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をわずかに上回った。 価格は、下旬に落ち着き、高値で推移した前年をかなり大きく下回り、平年をわずかに上回った。
土物類	ばれいしょ	北海道産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、天候に恵まれ生育は順調で豊作基調である。入荷量はやや少なかった前年を大幅に上回り、平年をかなりの程度上回った。 価格は、潤沢な入荷から下旬に向け下がり、やや高値で推移した前年をかなりの程度下回り、平年をわずかに下回った。
	さといも	千葉産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、定植期の不安定な天候から作業の遅延はあったものの、その後の生育は順調である。病害が一部見られるが、大きな影響はない。後続の埼玉産は、9月上旬より出荷を開始する見込みである。輸入の中国産は、少なかった前年の2倍近く増加した。総入荷量は、少なかった前年を大幅に下回り、平年を3割近く下回った。 価格は、堅調推移となり、下旬に落ち着いたものの、高値で推移した前年をわずかに下回り、平年を大幅に上回った。
	たまねぎ	北海道産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、^{ごく}極早生、早生品種については天候に恵まれ、肥大は良く、サイズはL大中心で豊作基調である。輸入の中国産は、前年を1割近く上回り、ニュージーランド産は6割以上下回った。総入荷量は少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をやや下回った。 価格は、潤沢な入荷から、中旬以降下がり、前年をやや下回り、平年をわずかに下回った。

(執筆者：東京シティ青果株式会社 平田 実)

(3) 大阪市中央卸売市場

大阪市中央卸売市場における野菜の入荷量は3万4531トン、前年同月比103.4%、価

格は1キログラム当たり284円、同97.9%となった(表3)。
品目別の詳細については表4の通り。

表3 大阪市中央卸売市場の動向(8月速報)

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格(円/kg)の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	34,531	103.4	92.3	284	97.9	113.9	303	297	259
だいこん	2,076	106.7	86.7	158	127.4	140.0	169	192	127
にんじん	2,285	99.3	96.4	92	62.2	67.4	72	81	118
はくさい	2,565	109.2	91.1	116	107.4	132.8	128	160	87
キャベツ類	5,142	96.8	83.0	122	145.2	155.2	137	137	99
ほうれんそう	261	107.9	94.9	940	99.1	105.0	987	1,035	859
ねぎ	768	116.9	119.8	515	96.6	100.2	492	575	492
ブロッコリー	275	92.3	73.1	547	104.0	111.9	503	517	625
レタス類	2,038	117.0	102.4	155	64.6	87.1	179	139	150
きゅうり	1,719	96.7	90.3	431	108.8	121.5	477	459	369
なす	1,051	115.5	110.5	324	93.4	99.0	346	313	314
トマト	2,718	95.5	90.2	437	93.0	114.4	433	425	451
ピーマン	814	109.7	115.6	468	90.9	108.2	478	525	436
ばれいしょ	2,266	120.4	100.4	165	84.6	90.3	222	170	122
さといも	37	68.5	77.1	451	106.1	117.2	463	465	429
たまねぎ	3,723	104.3	87.3	138	99.3	106.1	162	141	116

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」
注1：平年比は過去5カ年(令和3～7年)平均との比較。
注2：大阪本場および大阪東部市場のデータである。

表4 品目別入荷量・価格の動向(大阪市中央卸売市場)

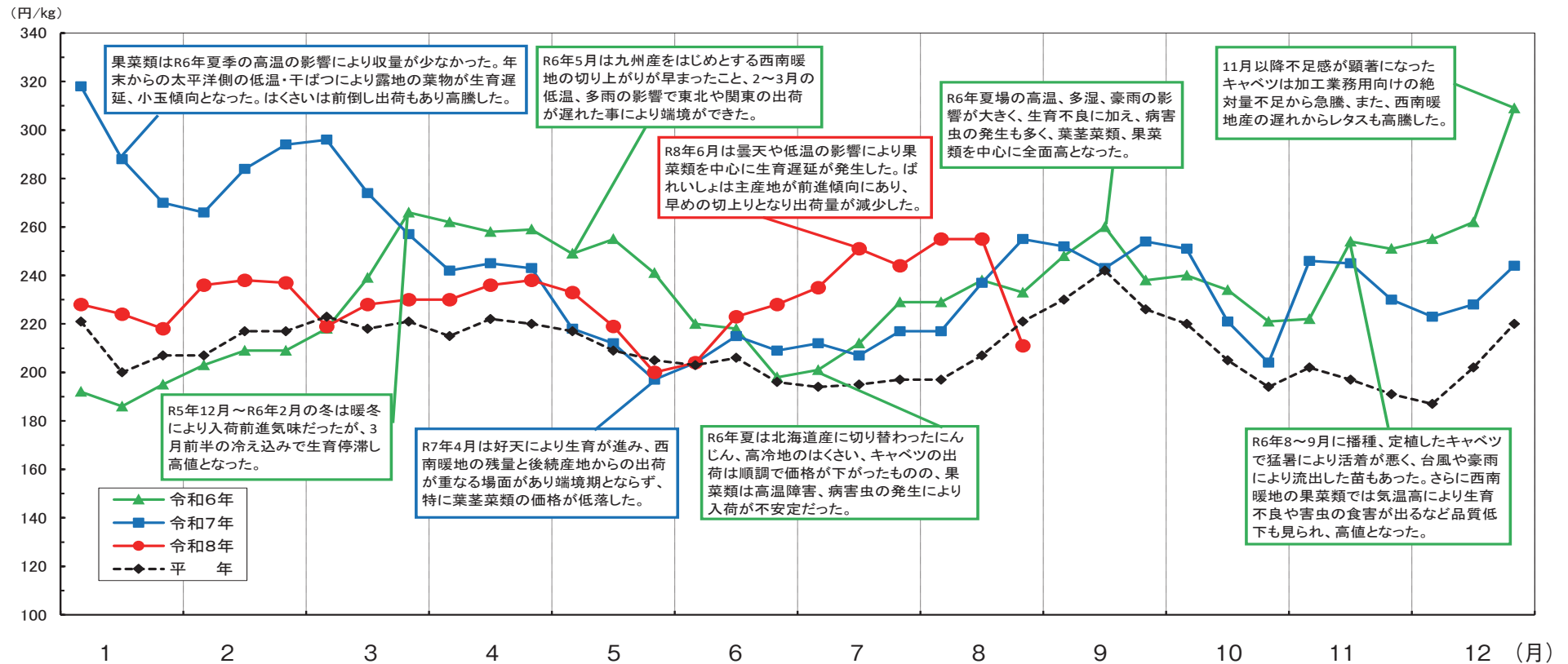
類別	品目	8月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	北海道産が中心となり、岐阜産や青森産の入荷があった。干ばつの影響で生育不良となり、作柄が悪く産地出荷量が少なかった。月間の入荷量は、少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をかなり大きく下回った。 不足感から価格は高騰し、月間では前年を3割近く上回り、平年を4割上回った。
	にんじん 	北海道産の入荷があった。上旬までは生育順調で、潤沢な入荷を続けたが、中旬から圃場での歩留まりが悪く産地出荷量が減り、入荷量も伸びなかった。輸入の中国産の入荷もあったが、国産の入荷が潤沢だったため、少なかった。月間全体の入荷量は、前年をわずかに下回り、平年をやや下回った。 前進出荷の中、各産地の出荷が重なり、販売に苦戦した。品質低下も見られたため、月間の価格は、前年を4割近く下回り、平年を3割以上下回った。

葉茎菜類	はくさい	長野産の入荷があった。上・中旬は、干ばつの影響による生育不良により産地出荷量が伸びない状況が続いた。8月の盆明け以降は降雨もあり、生育が進んで回復傾向となり、下旬には入荷増量となった。月間全体の入荷量は、少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は不足感から上・中旬は高値で推移したが、下旬には入荷増量と品質低下品が増えたことなどから急落した。月間の価格は、前年をかなりの程度上回り、平年を3割以上上回った。
	キャベツ類	主力の群馬産が中心となり、長野産の入荷があった。月の前半は干ばつの影響で産地出荷量が伸びず、8月の盆明けから下旬に回復傾向となった。月間全体の入荷量は、前年をやや下回り、平年を大幅に下回った。 価格は、品質は良好で引き合いもあったため、上・中旬は不足感から高値で推移したが、下旬に下落した。月間の価格は、前年を4割以上上回り、平年を5割以上上回った。
	ほうれんそう	岐阜産の入荷があった。8月の盆以降は生育順調で、潤沢な産地出荷が続いた。月間の入荷量は、前年をかなりの程度上回り、平年をやや下回った。 盆需要で上旬から中旬に高値となったが、安定出荷により8月の盆以降は落ち着いて、月間の価格は、前年をわずかに下回り、平年をやや上回った。
	ねぎ（白ねぎ）	鳥取産と長野産が主体となり、北海道産などの入荷もあった。各産地とも潤沢な出荷が続き、全旬を通じて安定した入荷となった。月間では前年を上回った。 消費地の気温が高く、需要は伸びず販売に苦戦した。月間の価格は、前年を下回った。
	ねぎ（青ねぎ）	青ねぎは徳島産、香川産が主体となり、高知産や近隣の大阪産などの入荷もあった。小ねぎは高知産と静岡産が主体となる入荷であった。四国産地を中心に極端な気温高と干ばつにより生育不良が多数発生し、入荷量は伸びなかった。月間全体の入荷量は前年をかなり下回った。 価格は、青ねぎは、品質低下で下位等級品の比率が高く安値となった。小ねぎは、引き合いがあり、高値で推移し、月間の価格は、前年を大きく上回った。
	ブロッコリー	北海道産が中心の入荷であった。極端な気温高の影響から作柄不良となり、品質低下も目立ったことから産地出荷量が少ない状況が続いた。月間の入荷量は、前年をかなりの程度下回り、平年を3割近く下回った。 価格は、入荷量が少なかったにもかかわらず、品質低下が見られたことで伸び悩んだ。月間では前年をやや上回り、平年をかなり大きく上回った。
	レタス類	玉レタスは長野産の入荷があった。全旬を通じて順調な産地出荷が続き、月間の入荷量は前年をやや上回った。サニーレタスは長野産が中心となる入荷であったが、極端な気温高の影響で品質低下が目立ち、産地出荷量が伸びない状況が続いた。月間の入荷量は前年を下回った。リーフレタスも長野産が中心となる入荷で、サニーレタス同様に気温高の影響で品質低下が目立ち入荷量が少ない状況が続いた。月間入荷量は前年を大幅に下回った。レタス類全体の月間入荷量は、前年を大幅に上回り、平年をわずかに上回った。 玉レタスの価格は、高値だった前年をかなり下回った。サニーレタスとリーフレタスの価格は、玉レタスの安値の影響から、入荷量が少ない中でも伸び悩んだ。レタス類全体の月間の価格は、前年を3割以上下回り、平年をかなり大きく下回った。

果菜類	きゅうり	主力の福島産が中心となり、長野産や北海道産などの入荷があった。北海道産や東北産は天候不順が続き、気温も上がらなかったことで生育が悪く、産地出荷量が少ない状況が続いた。北海道産の月間の入荷量は前年の半分以下であった。月間全体の入荷量は、前年をやや下回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、品薄感から8月の盆需要に向けて、上・中旬は高値で推移した。盆明け以降は商談時の価格が高かったことで引き合いが弱く、荷動きも鈍化したために下旬に下落した。月間の価格は、前年をかなりの程度上回り、平年を2割以上上回った。
	なす	千両系は、群馬産を中心に、京都産や茨城産などの入荷があった。長なすは、愛媛産が主体となる入荷であった。近畿や四国は極端な気温高の影響などで入荷量が伸びず、関東以北は順調な出荷が続いた。月間全体の入荷量は、前年をかなり大きく上回り、平年をかなりの程度上回った。 品質低下が目立ち、前さばきが悪く、引き合いも強まらなかったため販売に苦戦し、月間の価格は、前年をかなりの程度下回り、平年をわずかに下回った。
	トマト	岐阜産を中心に、夏秋産地の岡山産、愛媛産、熊本産の入荷があった。岐阜産は、前月までの着色遅れで8月に出荷がずれ込んだため、産地出荷量が増えて入荷増量となり、月間の入荷量は前年を大幅に上回った。西日本の各産地は、極端な気温高で産地出荷量は伸び悩んだ。月間全体の入荷量は、前年をやや下回り、平年をかなりの程度下回った。 月間の価格は、高値で推移した前年をかなりの程度下回り、平年をかなり大きく上回った。
	ピーマン	茨城産、宮崎産、愛媛産などの入荷があった。極端な気温高による高温障害もあり、産地出荷量が伸び悩む中でも一定の入荷があった。月間全体の入荷量は、前年をかなりの程度上回り、平年をかなり大きく上回った。 引き合いがある中でも、月間の価格は、高値で推移した前年をかなりの程度下回り、平年をかなりの程度上回った。
土物類	ばれいしょ	丸芋は、北海道産が中心となる入荷であった。作柄は良く比較的安定した産地出荷が続き、月間の入荷量は前年をやや上回った。メークインも北海道産が中心となる入荷で、安定した産地出荷が続き、旬を追うごとに入荷増量となり、月間の入荷量では前年を大幅に上回った。ばれいしょ全体の月間の入荷量は、前年を2割程度上回り、平年をわずかに上回った。 消費地の気温高もあり需要が伸びず、売れ行きが悪く停滞気味で販売に苦戦した。価格は、旬を追うごとに下落し、月間では前年をかなり大きく下回り、平年をかなりの程度下回った。
	さといも	宮崎産の入荷があった。8月の盆前までは盆需要があり引き合いもあったが、盆明け以降は売れ行きが鈍く、入荷量も伸びなかった。業務用関係では輸入の中国産の引き合いがあり、入荷量は前年を大幅に上回った。月間全体では、前年を3割以上下回り、平年を2割以上下回った。 一定価格での取引となり、安定した高値が続いた。月間の価格は、前年をかなりの程度上回り、平年を大幅に上回った。
	たまねぎ	北海道産が主体となり、兵庫産の入荷もあった。兵庫産は、不作で産地残量も少なく、旬を追うごとに入荷減量となった。北海道産は、平年並みの作柄で、全体としては旬を追うごとに入荷増量となったが、上・中旬の入荷量は伸び悩んだ。月間全体の入荷量は、少なかった前年をやや上回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、品薄感から高値続きであったが、北海道産の出荷スタートに合わせて旬を追うごとに下落した。月間の価格は、前年をわずかに下回り、平年をかなりの程度上回った。

(執筆：東果大阪株式会社 新開 茂樹)

(参考) 指定野菜(15品目)の卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)



(単位：円/kg)

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
令和6年	188	180	188	195	202	204	210	230	255	251	249	249	240	245	237	212	210	191	193	206	221	223	232	228	240	253	231	231	227	215	215	244	243	245	252	295
令和7年	306	279	260	257	274	285	290	270	253	236	236	235	212	205	191	196	206	199	204	199	211	211	232	249	243	233	246	242	212	196	236	236	222	215	220	237
令和8年	222	215	210	229	231	233	215	221	223	230	236	238	233	219	200	204	223	228	235	251	244	255	255	211												
平 年	214	193	199	200	210	211	216	213	215	211	218	216	214	206	202	200	202	193	191	192	194	194	204	219	226	238	223	216	202	191	199	193	187	183	199	216

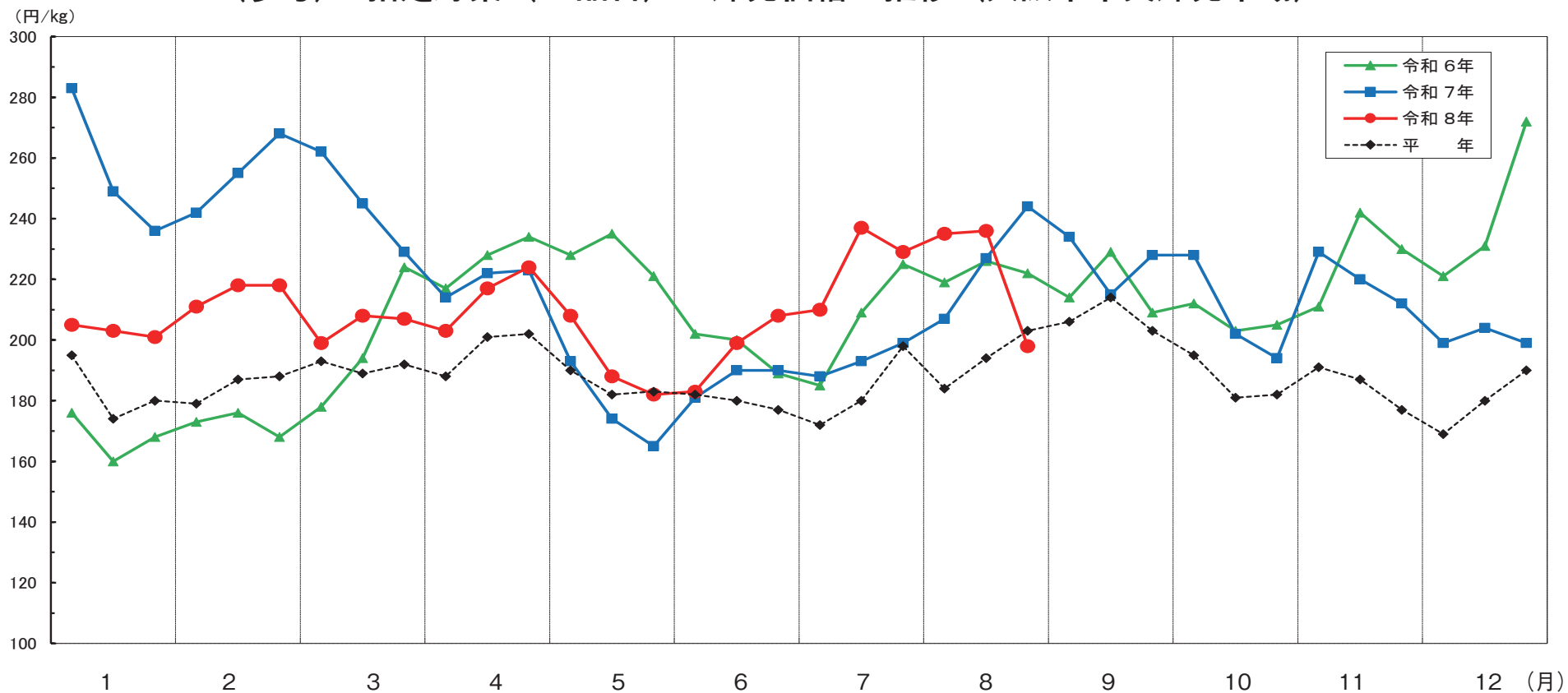
資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年とは、過去5カ年（令和3年～7年）の旬別価格の平均値である。

注2：豊洲市場、大田市場、豊島市場、淀橋市場の4市場のデータである。

注3：令和8年6月号（4月実績掲載分）以降、指定野菜はブロッコリーを含む15品目のデータである。なお、平年、令和6年、7年のデータもブロッコリーを含む。

(参考) 指定野菜 (15品目) の卸売価格の推移 (大阪市中央卸売市場)



(単位：円／kg)

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
令和 6 年	173	156	165	170	173	165	174	191	219	214	224	229	223	230	217	197	196	186	180	205	221	215	222	219	210	225	205	208	199	201	206	237	226	216	225	264
令和 7 年	278	245	231	238	249	263	259	243	227	211	218	220	190	170	161	175	185	185	183	189	195	203	224	241	230	211	224	223	198	189	222	214	207	194	198	195
令和 8 年	201	198	197	207	215	215	196	204	203	203	217	224	208	188	182	183	199	208	210	237	229	235	236	198												
平 年	191	171	176	176	183	184	189	187	190	185	198	198	187	179	179	176	176	173	167	175	194	180	190	200	202	209	198	191	177	177	187	183	173	166	176	186

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年とは、過去5カ年（令和3年～7年）の旬別価格の平均値である。

注2：大阪本場および大阪東部市場のデータである。

注3：令和8年6月号（4月実績掲載分）以降、指定野菜はブロッコリーを含む15品目のデータである。なお、平年、令和6年、7年のデータもブロッコリーを含む。